令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号　０７３２０２７　三原台中学校

	課題分析	授業改善策
国語	多くの生徒が授業準備や提出物への取組をしっかり行い、意欲をもって学習に臨むことができている。その一方で、習った知識や技能を普段の生活に活用している生徒は少なく、授業で習得した知識を実際の日常生活につなげていくことが課題である。	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、習得した知識・技能を生活場面で生かせるよう、実践的な言語活動を充実させていきたい。具体的には、スピーチや文章作成等の発信課題を設定するとともに、タブレット端末を活用した相互評価を取り入れ、日常生活や他教科の場でも主体的に活用できる力を育成していく。
社会	多数の生徒が授業に対して意欲的であった。その理由として「動画などの視聴覚教材の活用」「身近な教材を使った教材の工夫」「多面的多角的に物事を捉える活動」が考えられる。 一方で、学習内容について、多面的・多角的に捉えた内容を伝えあったり、学んだことを深めていったりするためには、意見交換をする時間と場面の確保、生徒に配付したタブレット端末の効果的な使用方法の検討などが課題である。	従来の話し合い活動や、自分の考えをまとめる時間と場面の機会を考え、どのように伝えあうことができるか、また互いに学びあうための方法は何かについて検討していく。 また、タブレット端末の活用も進めていくために、意見交流を活性化するためのアプリケーションが複数あるため、授業内の場面ごとに、教育効果がより高いアプリケーションを選択し、更に意欲を高めていく。
数学	１時間で、何を学ぶかを授業の始めにつかみ、多くの生徒が授業に臨んでいる。一方で、習った知識や技能を普段の生活に活用したり、日常生活との関連を見いだし、有用性を感じたりすることについては課題がある。	授業の導入やまとめで学習内容と日常生活との関わりについて教科等横断的に伝え、具体例を紹介する。具体的には、教科書のデジタルコンテンツを活用し、事例を紹介することや、章末問題Ｂの問題やコラムのページを活用する。そして、学習内容が実生活に結びついていることを実感させ、数学の意義を生徒自身が見いだせるよう授業の組み立てを工夫する。
理科	実験結果から結論を導いて記述し、条件を整えて実験を計画することが難しい生徒がいる。問題によっては、無解答の生徒もおり、表やグラフから規則性を読み取り、根拠を示して説明する力が十分に育っていない。 観察・実験を楽しいと感じている生徒は多い一方、自分で予想を立てて実験を計画したり、学んだことが日常生活に役立つと感じたりしている生徒は少ない。実験が「楽しい活動」にとどまり、自ら問いを立てて探究する姿勢につながっていないことが課題である。	課題の把握から予想、実験、考察、振り返りまでの探究の流れを毎時間意識させる。特に、考察の場面では「結果・根拠・結論」を順に書く型を示して、記述する力を段階的に高めていく。授業の最後には、本時の課題に対する自分の答えを書く時間を確保する。 スモールステップを意識し、理科が苦手な生徒であっても教員が作成したアプリケーションなどを活用して「できた・わかった」という経験を積み重ねる。 化学分野では元素モデルを操作しながら化学変化を考えたり、物理分野では測定値をグラフ化して規則性を見いだしたりして、実体験を通した学習の理解を図る。 計算に関わる内容については数学科とも連携する。

音楽	毎授業で「本時の目標」「本時のゴール」を明記し、学習内容を理解させてから取り組ませることによって多くの生徒が意欲的に学習することができている。アンケートから全学年の９割近い生徒が意欲的に取り組めていることがわかる。タブレット端末の活用も定着しており、生徒の主体的な学びやペア学習による協働的な学びに役立っていると感じる。　一方で、授業内容と生活の結びつきについては難しい側面があり、課題が感じられる。	全体共有、グループなど学習形態の工夫をして、より発言しやすい雰囲気をつくり、積極的な挙手発言をさらに促していく。 授業内容と生活の結び付きに関連できそうな単元については、ＩＣＴ機器などを用いて関連性を発見させ、まとめの部分などで取り上げて意識させる。
美術	多くの生徒が、素直に、意欲的に制作に取り組んでいる様子が見られている。一方、分からないことを自らすすんで解決しようしたり、表現として発展させたりする姿勢はまだ弱いと感じる。 授業規律を守り、授業に意欲的に取り組む生徒がほとんどである。 授業内容を実生活に生かせていないという課題が見られた。	制作するだけでなく、授業で学んだ技術的な知識を生かし、表現につなげられるような指導を心がける。そのためには、個別指導で一人一人の実態に合わせたアドバイスを行うとともに、生徒の参考作品を効果的に紹介できるよう工夫する。 ・話し合いの場を増やし、他者の意見を参考にしながら「自ら考えた」経験を増やす。 ・学習内容と実生活が関連するワードを紹介し、他教科との連携を図る。 ・学習カードの課題提示について、授業内容と関連付けたものにしていく。
保健体育	授業の内容については、運動のポイントや知識について理解し、実際の運動につなげている生徒が多い。 体験を通した実践的な学習を通じて、意欲的に授業に取り組む生徒が多い。 運動の価値を理解し、将来にわたりスポーツに親しむ態度が着実に育まれている。 用具等の忘れ物や、提出物の出し忘れをするなど、自己管理に課題が見られた。	ICT を活用しながら、授業に関連する事前通知やワークシートのオンライン提出を導入し、提出状況や期限を視覚化し、忘れ物・出し忘れを防ぐための自己管理能力を養う。 体育授業でタブレット端末を用いたフォームの動画撮影・相互チェックを実施する。 保健の授業でも、デジタル資料や記録を活用し、分析的かつ主体的な学びを展開する。グループワークに関する肯定的ない意見が多くあったため、各授業で、グループワークを取り入れ、対話的かつ体験的な学習を行う。 運動記録や振り返りを蓄積し、自身の成長を実感させながら生涯スポーツへの関心をさらに高める。

技術・家庭	【技術】 授業ごとに学習課題を提示したことによって、生徒が学ぶ目的を理解し、意欲的に学んでいる様子が見受けられた。一方で、ICT や教材を活用した際、活動中の場面と話を聞く場面の切替ができていない生徒が一定数いる。授業の内容と普段の生活との関わりを理解できていない生徒がいた。 【家庭】 １人１人が意欲的に授業に取り組もうという姿が多く見られた。一方、授業の要点について、メモ等をしている生徒はあまりいなかった。最後まで集中して取り組むことが難しい生徒が一定数いる。	【技術】 授業の注意事項や要点について、簡潔に伝えられるようにし、生徒が集中して授業に取り組めるようにしていきたい。また、学年や生徒の状況に応じた指導を行い、授業内容をより実生活を踏まえて指導を行っていきたい。 【家庭】 身近に感じてもらうため、実際に家庭で起こるシチュエーションについて、写真や動画を見せながら行い、生徒がイメージをもちやすくする。生徒の実態に合わせて、授業内容の切替等において、個別に声をかけて支援を行っていく。
外国語（英語）	授業では、発言をしたり、前に出て板書をしたりするなど、積極的に活動する生徒が固定化している。積極的な生徒は、先行学習などにより意欲や理解が高いが、消極的な生徒は、理解不足や発言への不安見受けられ、学習への関わり方に差が生じている。	スポーツやアニメ、芸能、他教科など多様な題材を取り入れ、生徒一人一人の興味・関心や得意分野を生かせる授業を展開する。積極的な生徒を手本としながら、生徒同士の協働学習や教え合いを通して、全員が主体的に学習へ参加できる環境を整える。教師は一人一人と個別に対応する機会を増やし支援する。